熊本保健科学大学
週刊 NEWSLETTER
2025.12.8
第 311号
発行 入試・広報課

理事長室から

竹屋 元裕

医学検査学科および看護学科の在り方検討プロジェクト始動にあたって

これまで多くの先生方から教育研究体制や教員組織を含めた学科の在り方について、直接的、間接的にご意見をいただいていたが、系統的に検討する場がなかった。ではどうすれば良いのかと思案を重ね、医学検査学科と看護学科を手始めとして、在り方検討プロジェクトを立ち上げることにした。

学科長を含むベテランから若手までの各年齢層から８～10名を指名し、11月17日の午前と午後にそれぞれ第1回会議を開催した。この１回目の集まりはワークショップ形式とし、医学検査学科では「志願者減に対する対策」と「将来を見据えた学科の在り方」について、看護学科では「専任教員確保のための対策」と「臨地実習や学内演習の体制整備」をテーマとして、２つのグループに分けてＫＪ法を用いて課題と対応策を提案していただいた。集まった意見をグループ内で討論し、若手教員がとりまとめを発表することとした。学科の在り方改革は現場の先生方にしかできないので、取り掛かりはトップダウンでも改革の実行はボトムアップである。お陰で、このワークショップを経て多くのアイデアが提案された。

今後のプロジェクト会議では、直ちに取り組むべき課題と、将来を見据え時間をかけて検討を進める課題に分けて対応策を検討することとなった。具体的な課題と対応策については、各学科の構成員全員に周知していただくので、プロジェクトメンバー以外の先生方にもぜひ、課題解決のための取り組みに参加していただきたい。（理事長・学長）

第１回学科の在り方検討プロジェクトの様子。写真左は医学検査学科。同右は看護学科

地元予備校の講師陣が懇切指導

チャレンジ熊保大！一般選抜対策講座

１限目の英語の授業。会場は生徒と講師の熱気にあふれていました

本学の一般選抜（一般）を希望する高校生に向けた恒例の「チャレンジ熊保大！一般選抜対策講座」が11月29日（土）、本学で開催され、生徒113人と保護者42人が参加しました。

熊本市の人気予備校「壺溪塾」の講師陣が、本学の英語・現代国語及び言語文化・数学（Ⅰ･A、Ⅰ･Ⅱ）・理科（化学・生物）・小論文の過去問題をもとに受験対策について解説。保護者向けには本学の概要や入試、奨学制度・アパートの説明会、学内見学ツアーなどを実施しました。

参加した生徒は、「英語の授業が面白く、あっという間に時間が過ぎた」、「学食のうどんが優しい味でおいしい」などと話していました。（入試・広報課）

ことばの相談室

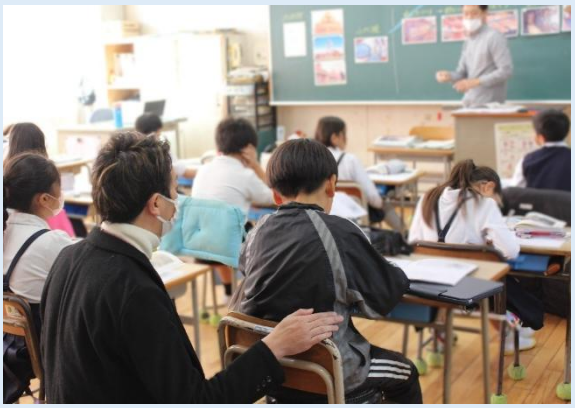
児童の変化 注意深く観察

西里小訪れ情報交換

ことばの相談室のメンバーが２日（火）、西里小学校を訪問し、同小教諭らと情報交換を行いました。

相談室が展開する地域子ども支援の一環。現在、西里小に通う子どもたちの学校生活・学習支援を協働で行っています。年に４回の訪問を計画しており、今回は３回目。前回の訪問から、子どもたちがどのように変化しているか、また新たに勉強面や生活面で気になる児童がいないか、同小の教員たちに聞き取りを行い、実際に授業の様子を見学します。

この日は、井崎基博教授、松尾朗講師、佐藤公美助教が訪問。松尾講師は、４年生の教室を訪れると、文字の書き方や姿勢などを近くで観察し、時折声をかけてサポートしていました。相談室メンバーの訪問は９日（火）にも行われ、仙波梨沙准教授、永友真紀講師も訪問する予定です。（NL編集部）



姿勢が気になる児童に優しく声をかける松尾講師（手前）

防災、減災に向け本学もブース開設

九州最大級の防災展示会

先進建設・防災・減災技術フェアで講演する防災・減災教育支援室の佐々木千穂教授

先進建設・防災・減災技術フェアin熊本2025が、11月19日（水）20日（木）の２日間にわたって益城町のグランメッセ熊本で開催されました。建設や土木、DXなど防災・減災に関するさまざまな展示や、プレゼンテーションが催されました。

2016年４月の熊本地震後にスタートした本展示会は今年で7回目を迎えましたが、九州地区では最大級の防災展示会ということもあり、両日の参加者数は7000人を超え、盛会のうちに幕を下ろしました。

本学も昨年度に引き続き、学術・研究シーズ部門にブース展示を行いました。ブースには高校生のほか卒業生や父兄、本学で防災士養成講座を受講した方、保健医療分野の減災に興味関心のある一般市民の方々や県内外の行政の関係者など、多様かつ数多い来訪者を得ました。また、来年は熊本地震から10年ということもあり、次年度に向けて、関係者からさまざまな相談や提案についての申し出をいただきました。

防災・減災は、分野領域を超えて連携する必要があり、このようなイベントに参加することは、本学の取り組みを知っていただく良い機会であるということも改めて認識しました。

（防災・減災教育支援室）

私の秘話ヒストリー

鉱石ラジオの不思議に魅せられて

医学検査学科　横山　俊朗教授

小学生の頃、科学雑誌の付録で作ったゲルマニュウムラジオ、アルミニウム様プレート２枚と、細い導線のコイル、ダイオード、コンデンサー、抵抗とイヤホンだけである。

半信半疑でラジオを組み立て、聞くことにした。やはり、そう簡単には聞こえない。アルミプレートをわずかに動かしながら、イヤホンに集中した。かすかに、何か聞こえたような…。微かにラジオの音が聞こえたときは感動的だった。電池もないのに僅かに音声が聞こえたのである。とても不思議に思えてならなかった。確認のために当時の通常のラジオで探して、確かに同じアナウンサーの声を確認した。

イヤホンからわずかに音が聞こえるのは、空中を飛び交う電波をアンテナが拾い、その微弱なエネルギーを検波・整流して音声信号に変えるからだ。放送局から送られる電波は、音声を高周波に“変調”して遠くまで届くよう工夫されている。受信側ではそれを“復調”し、必要に応じて“増幅”して耳に届く。いまやスマホもWi-Fiも電波なしでは成り立たない。あの小さな鉱石ラジオが、今でも電波の不思議と科学への好奇心を与えてくれたのかもしれない。電波が証明されて137年、日本での電波利用も今年100年を迎えている。今でも、不思議に感じている。

写真引用　学研1975付録のゲルマニウム・ラジオ

国試突破に向け対策講義

言語聴覚学専攻

来年２月に行われる国家試験に向け、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻では10～12月にかけて、国家試験対策講義を行っています。

12月２日（火）に3213実習室で行われた講義では、医用検査機器等販売を行う九州リオン株式会社の竹松知紀氏を講師に招き、補聴器関連の対策を行いました。過去の国家試験の問題を１問ずつ学生たちが解答していく形式で講義が進みます。難しい問題が出た際には、頭を抱えて考え込む場面もありましたが、終始、堂々と答える学生が多く見られました。

竹松氏は、これまでの授業を振り返り、学生たちの苦手な問題を取り上げながら、覚え方を伝授。学生たちは真剣にメモを取ったり、隣に座った友人と確認し合ったりと、国家試験に向けて着々と準備をしていました。（NL編集部）

「ここは重要ポイント」―。真剣にメモを取る学生たち

銀杏アラカルト

好天に恵まれ、参加者全員が心地よい汗を流した西里校区グラウンドゴルフ大会

■グラウンドゴルフ通じ地域と交流

西里校区グラウンドゴルフ大会が11月23日（日）、本学グラウンドで行われ、学生９人、職員２人が西里校区グラウンドゴルフ協会の人たちと共にプレーを楽しみました。グラウンドゴルフは専用の木製クラブでボールを打ち、スタートからホールポストまでの打数の少なさを競うスポーツです。上位入賞者は８ホールを17打ほどで回りました。初心者でもどんどん上達していけるため、今年はホールインワン賞を獲得した学生もいました。大会は毎年春と秋に開催されています。地域の方々も皆様と交流できることを楽しみにしていますので、ぜひご参加ください。（地域連携委員会）

インフォメーション

週間行事予定（12月８日～12月15日）	
12/８（月）	【クマホの未来創造チーム】事務職員による勉強会（仮称） 言語聴覚学専攻　卒業研究発表会 クリスマスイルミネーション点灯式
12/10（水）	防火訓練・防災訓練